目次に戻る

栄養教諭に求められる資質や能力についての研究
― 大学生と栄養教諭を対象とした調査の比較検討 ―

Research on qualities and abilities required for nutrition teachers
― Comparative study of survey targeting university students and nutrition teachers ―

沖本　久恵・川人　潤子・北林　佳織
Hisae OKIMOTO and Junko KAWAHITO and Kaori KITABAYASHI

キーワード：栄養教諭・コミュニケーション能力・他者との連携・学校栄養教育実践論

Ⅰ　目的

「食」は，私たち人間に欠かせない営みのひとつであり，私たちは「食べる」ことで心と体を養い，人として育つことができる。しかし，社会環境の変化によって「食」に関する価値観が変わり，食をめぐる様々な課題がみられるようになって，改めて「食」及び「食育」を見直すべきものとした「食育基本法」の制定から 12 年が過ぎた。特に子どもたちへの食育の重要性から栄養教諭が誕生し，学習指導要領の第一章総則に学校における食育の推進が示されたことで，全国各地の栄養教諭配置校を中心とした小中学校，特別支援学校で教科等における食育が実践されている。本県においては，平成 19 年度から栄養教諭が配置され，平成 29 年度から新規学卒者の採用試験も実施され，平成 29 年度現在 131 名の栄養教諭がおり，各地域・各学校の食育推進に務めている。学校における食育は全教職員の理解と協力があってこそ結実するものであり，栄養教諭はプロデューサー（食育の全体計画，給食を教材とした授業計画），コーディネーター（食に関する指導の連携・調整），カウンセラー（食について子どもへの個別指導，保護者からの相談）等の様々な役割を担っている [1)]。馬場は，栄養教諭からの聞き取り調査によって関係する人や機関を一覧表にし，栄養教諭の対外的な折衝は教員の中では校長並みに広く機会が多く驚くほど多様な折衝であると述べている [2)]。これらのことから，「教諭としての教育力・指導力」「管理栄養士としての高い専門性」，「食をコーディネートするためのマネージメント力」や「豊かな人間性」が栄養教諭に求められる資質・能力である [3)]。

栄養教諭に求められる資質・能力についての調査研究は，全国的なものや地域単位のものはあるが本県の栄養教諭に関するものは無いことから，筆者は本県の栄養教諭及び学校栄養職員，栄養士を対象とした調査，また栄養教諭免許を取得できる課程に在籍する短大生と大学生を対象に調査を行ってきた。本研究では，栄養教諭免許を取得できる課程に在籍する短大生と大学生の栄養教諭への職業イメージに対して，現役の栄養教諭及び学校栄養職員，栄養士が実際に現場で必要と感じる資質等との比較を行うことによって，栄養教諭免許を取得できる養成課程のカリキュラムにおいて重要な点を整理し，栄養教諭免許取得希望の大学生に実施した授業の効果を検討することを目的とする。

Ⅱ　方法

1　栄養教諭に求められる資質・能力についての調査

（1）調査対象者および調査時期

① 栄養教諭及び学校栄養職員，栄養士への調査

栄養教諭及び学校栄養職員，栄養士（以下,「栄養教諭等」とする）への調査については，広島県学校栄養士協議会秋季研修会に参加の栄養教諭等 139 名に対し，2016 年 11 月に広島県学校栄養士協議会に調査協力を依頼し，直接配付，回収した。欠損値等を除いた栄養教諭等 117 名（男性 0 名，女性 117 名，平均年齢 39.0 歳）を分析対象とした。回収率は 84.8％（139 名中 118 名）であった。そのうち，欠損値等を除いた有効回答率は 99.1％であった。

② 栄養教諭免許を取得できる課程に在籍する短大生と大学生への調査

栄養教諭免許を取得できる課程に在籍する短大生と大学生（以下「学生群 A」とする）への調査については，2016 年 10 月に，栄養教諭資格が取得できる課程に在籍する短期大学生 63 名ならびに大学生 182 名の計 245 名に対し，講義時間の一部を利用して質問紙調査を実施し，その場で回収した。欠損値等を除いた短期大学生 63 名（男性 3 名，女性 6 名；平均年齢 19.2 歳，1 年生 33 名，2 年生 30 名）ならびに大学生 171 名（男性 17 名，女性 154 名，平均年齢 19.6 歳，1 年生 65 名，2 年生 63 名，3 年生 43 名）の計 234 名を分析対象とした。有効回答率は 95.5％であった。

（2）調査内容

山岸（2013）を参考に質問項目を設け，栄養教諭等及び学生群 A のいずれの調査対象者にも，「栄養教諭に求められる資質や能力について，特に必要と思う項目を 5 つ選択してください」に対して，「1．教育者としての使命感」，「2．人間の成長・発達についての深い理解」，「3．幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」，「4．教科等（栄養）に関する専門知識」，「5．広く豊かな教養」，「6．豊かな人間性」，「7．課題解決能力」，「8．教科　指導，生徒指導のための知識，技能及び態度」，「9．他者（保護者・地域・教員・職員等）と連携　協力する技能」，「10．コミュニケーション能力」，「11．教材・献立等の開発のための発想力」，「12．その他」で回答を求めた。

2　体験学習の授業効果についての調査

（1）調査対象者および調査時期

体験学習の授業効果についての調査については，2017 年 9 月～ 10 月に，栄養教諭免許取得希望の大学 3 年次生 12 名（以下「学生群 B」とする）に対し，栄養教諭必須科目（学校栄養教育実践論）の中で実施した校外学習並びにロールプレイについての感想を講義時間の一部を利用して自由記述させ，その場で回収した。なお，学生群 B は学生群 A に含まれる。

（2）調査内容

① 校外学習

県内の食育推進小学校に出向き，給食準備から片付けまでを給食時間を児童とともにし，栄養教諭と学級担任とのティームティーチングによる食に関する指導の授業を見学，栄養教諭並びに学級担任への質疑応答を実施した。その後，この体験学習の感想を自由記述の回答からキーワード（栄養教諭に求められる資質・能力についての調査項目）によって分けた。（複数項目の場合も有り）

② ロールプレイング

ロールプレイングは，食育の専門雑誌記載された給食時間における食に関する指導の実践例[4)]を栄養教諭，学級担任，児童・生徒等に分かれてグループごとに実施し，その感想を自由記述

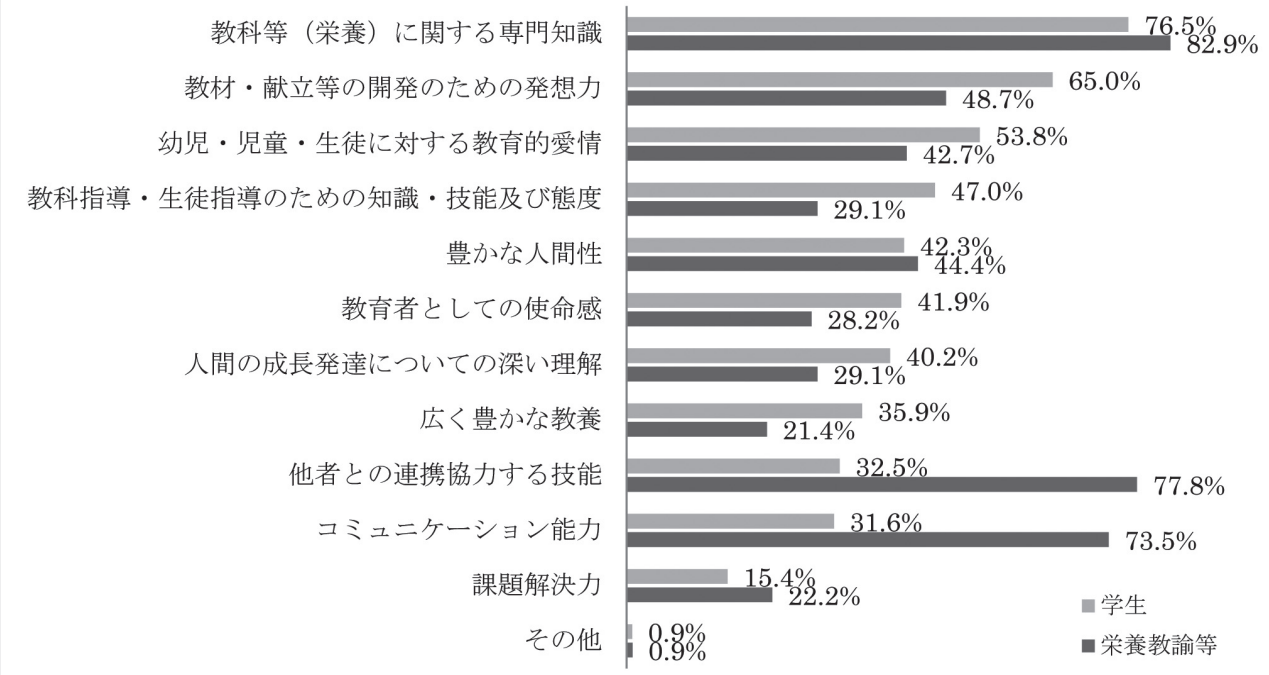
の回答からキーワードによって分けた。

Ⅲ　結果

1　栄養教諭に求められる資質や能力について

学生群Aが栄養教諭に求められる資質や能力について特に必要と思うものは，「教科等（栄養）に関する専門知識」76.5％で最も多く，次に「教材･献立等の開発のための発想力」65.0％，「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」53.8％，「教科指導・生徒指導のための知識・技能及び態度」47.0％，「豊かな人間性」42.3％の順で多かった。一方で栄養教諭等は栄養教諭に求められる資質や能力として最も多いのが「教科等（栄養）に関する専門知識」82.9％，次に「他者との連携する技能」77.8％，「コミュニケーション能力」73.5％，「教材・献立等の開発のための発想力」48.7％，「豊かな人間性」44.4％の順で多かった。【図1】

学生群Aと栄養教諭等の差異では，学生群Aが栄養教諭等より多いものは，「教科指導・生徒指導のための知識・技能及び態度」で17.9ポイント，「教材・献立等の開発のための発想力」16.3ポイント，「広く豊かな教養」14.5ポイントの順であった。栄養教諭等が学生群Aより多いものは，「他者との連携する技能」45.3ポイント，「コミュニケーション能力」41.9ポイント，「課題解決力」6.8ポイントの順であった。



【図１】**学生が想定する栄養教諭に求められる資質・能力と栄養教諭等が必要と感じる栄養教諭に求められる資質・能力**（学生 n=234，栄養教諭等 n=117）

2　体験学習の授業効果について

（1）県内の食育推進校における校外学習

学生群Bが県内の食育推進校に出向き，学校全体の食育への取組み，給食時間における指導の実際，栄養教諭と学級担任のティームティーチングによる5年生の社会科の授業を見学など小学校における食育の実際を体験した結果，全員（100.0％）が栄養教諭として必要な資質・能力として記述していた項目は「教科指導・生徒指導のための知識・技能及び態度」，「他者と連携協

力する技能」,「コミュニケーション能力」であった。次に「教科等（栄養）に関する専門知識」83.3％,「教材･献立等の開発のための発想力」25.0％,「広い豊かな教養」16.7％であった。【表 1】また，これらの記述に併せて，栄養教諭になりたい気持ちがとても強くなったといった記述が 4 件あった。

（2）給食時間における食に関する指導のロールプレイング

学生群 B は，栄養教諭が実施した給食時間における食に関する指導の例をロールプレイングすることで，授業環境や授業技術，教材等についての学びを記述していた。【表 2】

【表 1】県内の食育推進校における体験学習での学び

項　目	回　答　例
教科等（栄養）に関する専門知識（83.3％）	・食に関する質問をされた際には，きちんと答えられるようになりたい。
	・子どもたちの質問に答えられるように勉強しなければならない。
	・児童に豆知識として教えられるような身近なものと関連付けた知識（栄養に関すること等）を身に付ける。
教材・献立等の開発のための発想力（25.0％）	・普段から給食の写真を撮る等で教材として活用
	・教材として使えるような献立を作成
	・給食時間は様々な教科と関連づけ（食材の栄養素，英語でじゃんけんなど）
教科指導・生徒指導のための知識・技能及び態度（100.0％）	・児童の名前を呼ぶことで授業への参加意欲が高まる。
	・栄養教諭としての声掛けやアプローチは，児童の食に対しての関心を左右することを気にかけるべき
	・教えたいことを伝えつつ，児童の反応を見ることの大切さ
	・話を深く掘り下げる，グラフの見方，集中のさせ方などの授業のテクニックが必要
	・本時のねらいをしっかり押さえることで自分の伝えたいことをはっきりさせて授業することが大切
	・児童が自己課題を設定することで意欲の向上，深く考えることを促すことができる。
	・食育は教科と自らの生活を結び付ける役割があることに改めて気付いた。
広い豊かな教養（16.7％）	・広い知識やコミュニケーションは必要不可欠で，多くを取り込んでいきたい。教職教養を身に付ける。
他者と連携協力する技能（100.0％）	・教科と関連した授業をするには，他教諭に積極的に関わっていく態度が必要
	・学級担任との打ち合わせや授業では出過ぎず受け身にならずが大切
	・学級担任と授業を一緒に作り上げていくという気持ちで協力しながら行うことが必要
	・食育を推進させるために，学級担任に食についての意識をもってもらい，コミュニケーションを図りながら信頼関係を築いていくことが必要
	・校内で様々な人間関係を構築し積極的に交流していき協力することで，新たな発想や授業での協力ができる。
	・地域と連携してマスコットキャラクターを作成し食育が多くの人に認識されている。栄養教諭は保護者や地域の人達ともコミュニケーションをしっかりと取り連携していく機会を大切にする。
コミュニケーション能力（100.0％）	・自分の意志や考えを伝えるにはコミュニケーションが深く関わることを一層に感じた。
	・コミュニケーション力は相手に分かりやすく伝えるために必要
	・栄養教諭が各クラスで授業する上で大切なことは信頼関係。様々な先生とコミュニケーションが取れていることで連携して授業ができる。
	・児童や学級担任との普段からのコミュニケーションが大事
	・児童に対して学級担任も栄養教諭もコミュニケーション，人間関係の形成が一番大切
	・心を開いてもらえるようなコミュニケーション力が必要
	・栄養教諭として働くには，知識とコミュニケーション力と信頼関係が必要

【表 2】給食時間における食に関する指導のロールプレイの感想

項　目	回　答　例
授業環境	・授業の始まりは元気よく「こんにちは」と言うことで，子ども達が参加しやすくなる雰囲気がつくれると思った。
	・指導者の衣装も教材，雰囲気づくりのひとつである。
	・児童・生徒（役をしている学生）の目を見て，恥ずかしがらずできるようになりたい。
	・「楽しい授業にする」などポリシーをもって臨むことで相手に聞いてもらえる授業ができるのだと思った。
	・児童が明日のことが楽しみになるような授業ができればいいなと思う。
授業技術	・実際に授業をおこなってみると，間のとり方や説明の仕方など技術だなと思った。
	・先生たちの授業の仕方をもっと勉強しなければいけないと思った。
	・低学年には，まず「大事なことは 3 つある」など伝えることを分かりやすく，またジェスチャーなども取り入れる方がよい。
	・小さな工夫が児童・生徒に興味をもたせ，指導しやすくなり，伝わりやすくなることが一番印象に残った。
	・普段の生活や教科の内容としっかり関連させることが指導効果を上げるのに重要であることが分かった。
	・要点をまとめ，分かりやすく簡潔にしなければいけないと思った。
	・わかりやすい言葉遣いをしているのが分かった。
	・短い時間で伝えられるようにポイントのみとし，児童に明日も来てもらいたいと思ってもらえるようにする。
教材	・一方的に教えるのではなく，実際の給食を見て食べることが一番である。生きた教材である給食の活用が最適の教材となることが分かった。
	・教材の使い方がとても大事で，図や写真を使うなどの工夫がしたい。
	・わかりやすい言葉遣いをしているのが分かった。
	・経験がなく想像がしにくいようなことも，地図や写真，実物を用意するなど工夫次第で分かりやすくすることや印象に残すことができることが分かった。
	・クイズや実物を活用する，流行りの歌などを取り入れるなど児童・生徒の興味を引き，集中して話を聞いてくれると思った。

Ⅳ　考察

まず，栄養教諭に求められる資質･能力について，学生群 A と栄養教諭等ともに「教科等（栄養）に関する専門知識」はそれぞれに最も必要とするものであり，学生群 A よりは現役の栄養教諭等の方がより一層に専門知識の必要性を感じていることが分かった。それは，栄養教諭が学校における食育を進めるなかで，教科等のねらいや児童の発達段階，食に関する知識の習得状況にあったあらゆる視点からの食に関する指導をする必要性を感じているためと思われる。「教材・献立等の開発のための発想力」は栄養教諭等が求める能力の 4 番目に多いものであったが，給食献立を生きた教材として活用する必要性を感じながらも新しい献立やそれに伴う教材開発のための時間の確保の難しさや，統一献立やセンター方式の給食では新しいものを即座に取り入れる難しさがあることが予想される。しかしながら，「教科等（栄養）に関する専門知識」と「教材・献立等の開発のための発想力」は川越が言う「栄養士力」であり[5]，栄養教諭の職務上必須の能力であることから，学生は当然修得すべき能力であり，栄養教諭等となっても現状を改善していくためにさらに磨いていきたい能力である。

学生群 A，栄養教諭等ともに 5 番目に多かった「豊かな人間性」は教師に求められる総合的な人間力のひとつである。学生群 A は「教育者としての使命感」「人間の成長発達についての深い理解」などと同等に必要な資質として捉えていたが，栄養教諭は「思いやり」「忍耐力」「公平均等な愛情」などを含めた「豊かな人間性」を必要な資質として捉えていたことが自由記述からわかった。学校

教育全体で取り組む食育の要として総合的にマネージメントしていく中で必要と感じたものであると考える。

学生群Aと栄養教諭等で差異が大きく，栄養教諭等の方が学生群Aの2倍以上を示していたのは「他者との連携協力する技能」「コミュニケーション能力」である。この2つの資質・能力は，机上で学ぶものではなく，実践のなかで身に付けていくものである。10年前に栄養教諭制度が設立されてから，栄養教諭は学校における食育推進の中核として務め，学校内外のコーディネートやプロデュースなどをしていくなかで，「他者との連携協力する技能」「コミュニケーション能力」の必要性を強く感じたものと考える。しかし，学生群Aは実際の栄養教諭の職務をイメージすることができず，さほど必要性を感じていない。

そこで，栄養教諭免許取得希望の大学3年次生（学生群B）を校外学習として県内の食育推進小学校に引率し，給食準備から片付けまでの給食時間を児童とともにし，栄養教諭と学級担任とのティームティーチングによる食に関する指導の授業を見学，栄養教諭並びに学級担任への質疑応答を実施した。学生群Bは初めて栄養教諭と学級担任とのティームティーチングによる食に関する指導の授業を見て，学級担任との連携の良さ，栄養教諭と児童との関係の良さからコミュニケーションの大切さを深く感じ取っており，自分の意志や考えをわかりやすく伝えるため心を開いてもらうための「コミュニケーション能力」を身につけ，さらに信頼関係や人間関係の形成の必要性を感じていた。

栄養教諭並びに学級担任への質疑応答では，学級担任との連携する意義や連携する具体的な方法についての質問があり，学級担任の食に対する意識の向上を図っていく意欲，自らが他教諭に積極的に関わっていく態度，一緒に授業を作り上げていく姿勢など「他者と連携協力する技能」を身に付けていくことの重要性をつかんでいた。

また，食育の専門雑誌記載された給食時間における食に関する指導の実践例を栄養教諭，学級担任，児童・生徒等に分かれてグループごとにロールプレイングすることで，授業環境，授業技術，教材について気づき，主体的な学びを得ることができていた。さらにロールプレイング後は学生のコミュニケーション力が高まり，その後の模擬授業の始まりや終わり方についてのスキルが身に付いた。

V　まとめ

本研究では，栄養教諭免許を取得できる課程に在籍する短大生と大学生（学生群A）と現役の栄養教諭及び学校栄養職員，栄養士（栄養教諭等）との栄養教諭に必要な資質・能力とは何かを比較することで，栄養教諭免許を取得できる養成課程のカリキュラムにおける体験学習の必要性が整理され，栄養教諭免許取得希望の大学3年次生（学生群B）に実施した授業の効果を考察した。

結果，栄養教諭免許を取得できる養成課程のカリキュラムにおいて，栄養教諭の職務や役割を知る体験学習（校外学習，ロールプレイング）を取り入れることで，学生群Bは栄養教諭とは何かが現実的な明確なものになり，自らの気づきによって得た学びが多く，特に「コミュニケーション能力」，「他者と連携協力する技能」，「授業づくりに必要な技術」の必要性を感じ取り，身に付けていく意欲をもつことができた。

学生群A（学生群Bも含む）は，小学校や中学校での栄養教諭の存在が明確でなく，栄養教諭という職業についての知識は高校生または大学生になってから知った者が多く，栄養教諭のイメージがつかめていない者がほとんどである。そのような中で，栄養教諭免許取得を希望する大学3年次生（学生群B）に理論的な講義ばかりでは，形だけの免許取得になりかねない。本学科では，1年

次生に職場見学として栄養教諭の職務の実際にふれる機会を設けているが，栄養士・管理栄養士の職場のひとつとして栄養教諭があるといった捉えであり，1年次ではまだ学生自身が栄養教諭そのものを深く知る機会にはなっていない。しかし，栄養士・管理栄養士の職場を知る講義の中で栄養教諭の職務について映像を使うなどより具体的に把握できるようにすることも必要である。そして，栄養教諭免許取得を希望する意思が明確になった大学3年次生にできるだけ早い時期に体験学習を取り入れ，理想とする栄養教諭像を描き，夢に向かって取り組んでいけるように支援していくことが今後の課題である。

謝　辞

体験学習にご協力いただきました広島県A小学校の校長先生をはじめとする全教職員の皆様に御礼申し上げます。

参考文献

1）文部科学省教育課程課･幼児教育課編『初等教育資料』（株）東洋館出版社, 2015年12月号, p. 2-5
2）文部科学省教育課程課･幼児教育課編『初等教育資料』（株）東洋館出版社, 2015年12月号, p. 6-11
3）笠原賀子『栄養教諭のための学校栄養教育論，医歯薬出版，2006，p．9-11
4）『学校給食』全国学校給食協会，2017年5月号，p30-43
5）川越有見子著『栄養教諭養成におけるカリキュラム開発研究』風間書房，2015年，p．157-165